



学校通信



尼崎市立武庫東中学校

令和7年度 10月号

文責:校長 仁科 良久

最近、「おせっかい」と「親切」の境目について、考えることがよくあります。特に、初めて中学生と関わる立場になって、「もう中学生なのだから・・・」「でもこれは・・・」のはざまで、子どもたちへの声掛けに躊躇することが増えました。こんなエピソードを聞いたことがあります。

ある日、ハンバーガーショップで、若い女性客がカウンターの中のベテラン女性店員に、『〇〇バーガーください。ソースは多めで。タマネギは抜いてください』という注文をしました。よくある注文です。しかし、それに対する返事がよくある返事ではなかったのです。ベテラン女性店員さんは、すぐに、こう答えました。

『あんた、タマネギ嫌いなん？ 若いうちから好き嫌いはアカンよ。タマネギは栄養の宝庫やで。あんた、まだ独身やろ。これから結婚して子供を生んで、旦那さんの面倒見ていくんやし、栄養つけなアカンよ。ちょっと火を通しといたるから食べてみい。だまされたと思って。ほんまにおいしいねんで。ええな。』

若い女性客は、あつけにとられて、思わず、『はい。お願いします。』と言ってしまいました。

・・・窓際のカウンターで食べ始めた彼女の目に、涙が浮かんでいました。



さて、この女性の涙は、どんな涙だったのでしょうか。

「ベテラン女性店員に厳しく言われた。『大きなお世話だ！』という悔し涙でしょうか。それとも、「都会の片隅で、まるで母親のような『温かさに触れた』」という、うれし涙でしょうか。子を持つ親の立場としては、うれし涙であることを願わずにはいられません。しかし、ベテラン女性店員の言葉が「おせっかい」だったのか、「親切」だったのかは、この若い女性客にしか、わかりません。そして、受け取り方によって、どちらになる可能性もあります。

ただし、それを分けるものは、「愛情」と「思いやり」、そして「信頼関係」だということは、間違いなさそうです。そして、相手の必要感に配慮した、決して過干渉にならないような、非常に繊細な力加減が必要となるものだということも・・・。

子どもの成長を願わない親はいないように、我々教員も、それを願わない日はありません。

今後も、我々の指導に対し、「うるさいなあ」ではなく、「そのとおりだな」と、子どもたちが思えるような心の結びつきを築けるよう、精一杯の努力を続けたいと考えています。

実りの秋が始まります、ご理解、ご協力をお願いいたします。

◎10月の主な学校行事◎

2.3 日(木・金) 中間考査

22日(水) 合唱コンクール

24日(金) 文化活動発表会

28日(火) 中高合同音楽会

